

蓬萊町だより

第二十九号

口会部 10月 10日
蓬萊町 8月 3日
文芸者 3年 8月
編集者 3年 8月
発行集 3年 8月
平発編 3年 8月

蓬萊町界限 (その二十五)

郁文館の「ラジオ体操」

林 順 信

◆立派だった「皆勤賞」

猛暑の夏休み中の早期の行事として、またすがすがしい夏の風物詩として、ラジオ体操は全国いたるところで見られた。ところが昨今は下町を中心としてコミュニティの破壊が行われて、昔日の盛況が嘘のようになったところもある。

私が小学上級生時代の昭和十三、十四年当時、蓬萊町七番地にある郁文館中学・商業の運動場では、夏休みの早朝にラジオ体操が盛大に行われていた。現在はアンツーカーなどの敷きつめて整理されているが、今から半世紀以上も前から、運動場はあって泥そのものの柔かいものだった。

もう半世紀以上も年月を経たので、記憶が定かではないが、想い出してみると大体こうであった。時間は早朝六時が第一回で、第二回は六

時五十分から七時だったと思うのだが、日本放送協会のJOAKのラジオ放送に合わせ、体操をするのだが、一日で三、四回あるラジオ体操放送のうち、第一回が秋、冬、春は午前六時半だったが、夏期は六時とくり上げられていたと思う。寝坊したり、何かの用事で六時に間に合わなかった人のために、第二回の六時五十分〜七時も「ラジオ体操」はやったのだと思う。

郵便葉書大の厚紙でこしらえた出欠表が配られて、参加すると、小さい丸い日付印を楯目の中に押して貰った。その出欠表は、隅のところに穴があけてあって、木綿糸をくぐりて首から下げて歩いたし、そのまま体操をしていたと思う。その参加のはんこは、第一回目が青インクで、第二回目は赤インクで区別して押して貰ったと覚えている。何れも参加済みとしての区別はなく同等だった。

七月二十一日の夏休み開始の口にはじまって、八月二十日を最終日として丸三十日間だったと記憶しているが、若しかすると、もう少し短かくて二週間か三週間かであった様な気もしている。町内でご存知の方は後で町会役員の方に御教示賜ることをお願いしたい。

参加印が期間中一日も欠けることなく押されると、後日、八月三十一日付で、「皆勤賞」が贈られた。この「皆勤賞」の賞状は今から考えとかなり立派なものであった。この「蓬萊町

だより」に写真の印刷も可能となったので、今回は昭和十三年のものと昭和十四年のものと二種類をご披露する。当時は口中戦争の真只中の時代で、私が小学四年生、五年生の夏休み期間中であつた。私は当時から単身で全国に汽車旅行をしていたから、このラジオ体操が皆勤であるには、期間が二、三週間と短かかったとも考えられるのである。長ければ旅行どころではなかったと思えからである。

この賞状の印刷納入は、恐らく郁文館真前にあつた比較的しっかりした齊藤印刷で行つていたのでらう。郁文館の真前の道には、曲がり角に行岡洋服店、それから西へ、大庭万年筆店、宮下剣道具店、辻宝文堂、斉藤印刷所、松本洋服店が角地であつた。それ等の各商店の裏手南側には細い路地が一本東西に通つていて、ドブ板が渡してあつたのが大空襲までの姿であつた。私どもはその路次で、めんこだのべえごまだのをして遊んでいた。

◆始めにラジオありき……

「ラジオ体操」とはラジオ放送に合わせて体操をするわけだから、ラジオ放送が前提となる。そもそもわが国のラジオは大正十四年(一九二五年)三月二十二日、「東京放送局」という名称で、芝浦の仮放送所(現在の芝浦工大敷地)から「JOAK、JOAK、こちらら東京放送局であります……」との第一声を発信した。同

年七月十二日 は、芝浦から例の愛宕山に放送局を移転して本放送を行った。

当時のラジオは、レシーバーを耳に当てての一人だけでしかきけない鉱石式ラジオと、ラッパの付いた単球式ラジオで、きわめて高価だった。鉱石式ラジオが三十円、電池式ラジオが百〜二百円もした。大学生の初任給が四十五〜五十円時代の話である。

ラジオ放送は、東京のほかにJOBKの大阪局とJOCKの名古屋の三局が大正十四年からあったが、大正十五年八月二十日という日に統合され「日本放送協会が誕生した。

◇
一方体操の方はどうかというと、「ラジオ体操」のお手本が、時を同うして、アメリカのニューヨークに始まった。メトロポリタン生命保険会社が、自社の保険加入者の健康増進のために、大正十四年（一九二五年）三月三十日、第一回の「ラジオ体操」の放送を行ったのだった。

わが国の生命保険事業のうち、国営のものは通信省（郵政省）簡易保険局（麻布二つ橋そばに堂々たる西洋建築がある）で行っていた。その監督課長猪熊貞治と、規画課長の進藤誠一は夫々、大正十二年、大正十四年に、保険事業の視察のため欧米に足かけ二年滞在した。

この兩名は、欧米人の体格の良さ、運動の普及に感銘を受け、帰国後わが国にも「健康体操

放送」なるものを実施する様に各方面に働きかけた。

当時のわが国、とりわけ東京市は、第一次世界大戦（大正三年〜七年）の戦勝から鉄成金、船成金を生んだのをはじめ、機械生産時代が到来して、多くの月給取りが集中してち市部二万人、郡部二百万人、都合四百万都市に成長していた。運動不足の勤め人社会が現出していた。そこへ関東大震災で大打撃を受け、その後の復興と世界的恐慌の荒波の交差する中、益々大東京の範囲を拡げて行った。

◇
当時は既に現在の原点とも見える。サラリーマン社会、近郊私鉄による都心への通勤、学生の急増、職業婦人の進出、労働組合運動、ストライキ、エログロナンセンス、モボモガの流行などが生まれ、世相が今日と酷似して来いた。

一般の大衆の急増とそのはけ口の管理ということで、健康衛生思想というものも大いに叫ばれつつあった。

まさにそういう時、ラジオの面でも体操の面でも全く機が然して昭和三年は、また昭和天皇の御大典の年でもあった。その記念をかねて十一月一日を第一回として、まず東京放送局から「ラジオ体操」は開始された。最初三日間のみが藤本光清アナが、続いて江木理一アナが、昭和十四年五月に佐々野利彦アナにバトンタッチするまで十余年に亘って活躍した。「ラジオ体操

操の江木か、江木のラジオ体操か」と言われた程有名な江木理一アナウンサーは、実はわが蓬萊町のラジオ体操会場に一度訪れたことがあった。今日と異って姿が見えないラジオ放送での江木アナの人氣は大変なものだった。

◇
「躍る旭日の光を浴びて、屈指よ伸ばせよ吾等が腕、ラジオは號ぶ一二三……」独特なアクセントと言ひ回わしの江木アナを一目見んものと、昭和十三年八月の都文館校庭には二百人も及ぶ蓬萊町会員が集まった。白い帽子に白シャツ、白ズボン、真黒に口焼けしたその顔からは白い歯だけがピカッと光った。まるでタヌキみたいな大鼓腹を踊らせて動き回る江木アナと一緒に早朝の「ラジオ体操」をしたことがついでこのあいだの様である。

◇
「ラジオ体操」が普及するまでには、都内でも先駆者的な役割りを演じていたのは、万世橋警察署の面高叶巡查で、彼は昭和五年の夏に神田川に架かる和泉橋わきの空地で附近の青少年を集めて「ラジオ体操」を行っていた。

わが文京区内では、小石川区大塚辻町の大塚公園には、既に昭和四年から先駆的存在の「ラジオ体操」の会があったことは注目に価する。

◇
現在から丁度六十年前の昭和六年七月には「東京ラジオ体操の会」が設立され、七月二十一日から八月二十日まで、各地で早朝の「ラジオ体操

操」が催され、一日で十二万人もの人々によって約二六〇会場でリアルタイムで等しく「ラジオ体操」が行われた。その六十周年を記念してか、本年は「ラジオ体操」を根津神社境内で従来よりも更に大々的に、周辺町会からも参加して行われることになっている。伝統ある蓬萊町会からも参加を期待されている。

私の「皆勤賞」は、三月十日の大空襲にも拘らず手もとにあるのは、春日部に荷物を疎開しておいたので助かったのである。

この二枚の「皆勤賞」を比べると、興味あるのは、共に、昭和十二年九月から始まった「国民精神総動員法」に基づく「健康報国」とか「国民心身鼓練」とかのいかめしい標語入りであり、その年七月から勃発した日中戦争時代の影を残していることである。

戦争中は、「ラジオ体操」の効能をお上が見のがすわけはなく、簡易保険局が厚生省に移管された。そして、文部省までもが「ラジオ体操」の奨励に乗り出した。それで昭和十三年夏には、蓬萊町ではなく郁文館が主催者となっているのである。翌十四年には、国を挙げての「健康報国」となり、わが蓬萊町町会が主催者とかわり、郁文館は後携者うなって、会場は郁文館の校庭で一貫して「ラジオ体操」を行っていた。皆勤者には賞状のほか、ライオン歯磨とか、ノートとかが添えられていたと思う。

編 集 部

◎六月四日に前町会長 海蔵寺住職 久具貫一氏がご逝去されました。戦後の昭和二十二年「駒込蓬萊町親和会」が海蔵寺に於て発足以来四十五年間、町会の為にお尽力された。特に昭和五十六年には当町会百年を祝う記念行事の中心として公私共に絶大な貢献をされました。ここに慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

皆勤賞

林 順 信

右ハ国民心身鍛練運動實施ノ趣旨ヲ以テ開催セル本校主催ラジオ体操ノ會ニ出席精勵セリ仍テ茲ニ之ヲ賞ス

主 催 郁文館 中 学 校
後 携 郁文館 商 業 学 校

こんなに盛大だった郁文館の「ラジオ体操」の写真入り賞状 昭和13年

精勤賞

林 順 信

右ハ国民心身鍛練運動實施ノ趣旨ヲ以テ開催セルラジオ体操ノ會ニ出席精勵セリ仍テ茲ニ之ヲ賞ス

主 催 蓬 萊 町 々 会
後 携 郁文館 中 学 校
郁文館 商 業 学 校

蓬萊町々会が主催者となった。 昭和14年の賞状。

◎林先生の文中にもあります様に来る八月三十日午前六時に根津神社境内に於て、NHKによる「ラジオ体操」の実況放送が行はれます。文京テレビも録画放映すると思いますが皆さんふるって参加して下さい。

◎平成二年度の決算及三年度の予算が、去る六月二十二日の町会年次総会に於て審議可決いたしましたのでご報告いたします。

・編集委員 小林音吉、竹中一馬、高橋一郎
猪熊良晃、池田暉

平成2年度 決算報告書

(平成2年4月1日～平成3年3月31日)

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	59,865	区より	総会費	196,118	会場費及茶菓子代
町会費	1,608,700		会議費	72,422	役員会々場茶菓子代
補助金	172,453		総務部	143,136	部会、研究等に
雑収入	2,000		渉外費	181,850	関係団体等
寄付金	206,023		備品費	71,520	維持及購入費
銀行利息	27,925		事務費	74,237	
			通信・交通費	95,564	
		電気代	41,164	防犯灯、維持費含む	
		防火・防災部	40,462	部の活動費	
		防犯部	30,971	部の活動費	
		交通部	14,000	部の活動費	
		衛生部	5,000	部の活動費	
		文化部	136,290	部の活動費	
		婦人部	239,477	部の活動費	
		青年部	250,000	部の活動費	
		慶弔費	54,000		
		消耗品費	8,940		
		防災積立金	300,000		
		繰越金	121,815		
合計	2,076,966		合計	2,076,966	

平成3年3月31日

収支決算上記の通り報告します。

上記の決算相違なき事証明します。

防災積立金¥1,729,286(今年度分を含む)

会長 高島正義 ㊟

会計 川西正造 ㊟

会計監査 竹中一馬 ㊟

平成3年度 予算表

(平成3年4月1日～平成4年3月31日)

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	121,816	前年度より	総会費	200,000	会場費、茶菓子代
町会費	1,700,000	(区より)	会議費	70,000	役員会々場茶菓子代
補助金	172,453		総務部	300,000	部会、研究費
雑収入	100,000	銀行	渉外費	200,000	関係団体等
利息	10,000		備品費	60,000	維持、購入費
			事務費	80,000	
			通信・交通費	100,000	
			電気代	50,000	防犯灯、維持費
			防火・防災部	70,000	訓練費他
			防犯部	60,000	夜警等に
			交通部	100,000	安全運動費他
			衛生部	10,000	
			文化部	180,000	蓬萊だより成人新入学等
			婦人部	230,000	敬老他に
			青年部	300,000	部費
			慶弔費	60,000	
			消耗品費	20,000	
			防災積立金	0	
			予備金	14,269	
合計	2,104,269			合計	2,104,269

町会員各位 殿

平成3年6月

蓬萊町会